

### ◆内科診療室から◆ 入院医療をめぐる現状

内科 井上 均 (医師)



代々木病院には毎日 しまっています。 そのような状況の中 隣りの病院から入院や転 院の依頼が寄せられて います。多くは当院に かけてですが、「という 患者さんからも多くの 入院依頼が来ていま す。 近隣の病院に入院し たけれど、差額室料が 払えないので転院させ て欲しい患者さん。治 療は終わったけれど、 もう少しリハビリを続 けたいのに退院を迫ら れている患者さん。在 宅に戻るにも十分な準 備ができていない患者 さん。 代々木病院は常に満床 (空きベッドがない状 態) が続いています。 そのために必ずしも入 院依頼を受けられずに 大変なご迷惑をかけて

## 全人的アプローチ 追求したい

この症例では、ターミナルの患者さんに対して、十分な疼痛対策がされていないうえに、病棟の都合だけで患者さんを無理やり退院させ、その後の責任を一切持たない、という構図です。 国や自治体が、医療にも格差付けをし、あるいは役割付けをする結果、特に大病院では患者さんの人格を尊

重し、生活を含めてターミナルに診て、退院後一ターミナルに責任を持つ患者さんに責任を持つ姿勢が弱まっているのではないかと思ひます。そんな医療の中で新しい医師の研修が行われれば、どういふ医師が育つかはおのずかと明白です。 私たち、代々木病院は、平等の医療を守るために皆さんと一緒に闘い続ける決意でがんばっています。

ある事例を紹介します。

- 69歳、男性、半年間近医で股関節痛の治療を受けたが、改善しないためA大学病院に入院。精密検査で「脾臓癌と股関節を含む全身への癌の転移」と診断された。化学療法を2クール受けたが効果なく、疼痛治療を受けていた。
- 入院期間が長くなったこともあり、退院の日を告げられ家族が自力で転院先を探した。当院にも入院相談があったが、ベッドがいっぱいで数日待つて欲しいという返事をした。しかしA病院はそれを待つことをせず予定通りに自宅へ退院とした。しかし癌による全身の疼痛が強く、39℃の発熱もあり、家族は2日間、寝ずの看病を行った。
- そのためなんとかベッド調整をして2日後に当院に入院とした。入院時、全身の痛みでベッド上を転げ回り、麻薬による鎮痛を行うもなかなか効果が出ず。入院後2日間、本人、家族ともとても苦しい思いをした。その後、痛みは徐々に改善したが、2週間後、多臓器不全となり永眠した。

## 酒

ヒトラーは総統になつてから、生漉酒を飲みませんでした。ヒトラーユーゲンドにも禁酒を指針とし、アルコール依存症には遺伝傾向が強いと、障害者やユダヤ人と共に大量虐殺の対象にしました。



一般的に重大犯罪の過半数に「酒」は絡んでいますが。しかし、逆に歴史的な大犯罪を起こす人間にはヒトラーのように「酒」を必要としない狂信者も多いのです。 この事実も「酒」を飲まないで済むので、飲まなきゃ耐えられない、社会への「酒」の害を防げないことを示しています。 歴史では、一時的に煽情的な誤った「論理」に人々がとられ、時代もありました。社会が締め付けられ弱者が排除されようとした

### 「酒でも飲まなきゃ」は大きな損失に

上から禁止するので、飲まなきゃ耐えられない、社会への「酒」の害を防げないことを示しています。 歴史では、一時的に煽情的な誤った「論理」に人々がとられ、時代もありました。社会が締め付けられ弱者が排除されようとした

飲まなきゃ耐えられない、社会への「酒」の害を防げないことを示しています。 歴史では、一時的に煽情的な誤った「論理」に人々がとられ、時代もありました。社会が締め付けられ弱者が排除されようとした

## くすりの話 あれこれ15



最近テレビや新聞でジェネリック医薬品の宣伝を見かけたり、処方せんに「後発医薬品に変更可」の記載を見かけることはありませ

最近テレビや新聞でジェネリック医薬品の宣伝を見かけたり、処方せんに「後発医薬品に変更可」の記載を見かけることはありませ

### ジェネリック医薬品の話

谷本 昌義(たくみ外苑薬局・薬剤師)



ジェネリック医薬品の利点は、価格が新薬よりも安いことです。テレビなどでは「薬代が半分になります」と宣伝してたりしますが、実際にはジェネリック医薬品にはジェネリック医薬品のないものも多くあります。また代々木病院グループのようにもともとジェネリック医薬品を多く使っている場合は安くならないことが多いです。さらに安くなる場合でも、新薬とジェネリッ